

無着成恭と小学校の恩師

7組 山本 哲照

無着成恭の訃報

12月初旬のある日、毎日新聞の朝刊の今年亡くなった有名人のことを偲ぶコラムに載っていた名前を見て「**ン？この名前は・・・？**」と胸を衝かれました。その人の名は「無着成恭」です。遠い昔70数年前の記憶が甦ってきました。亡くなったのは7月21日ですがその時は訃報に気付きませんでした。

※無着 成恭（むちやく せいきょう）～Wikipediaから引用～
1927年3月31日～2023年7月21日。日本の教育者、禅宗の僧侶。生活綴り方の代表的な文集「やまびこ学校」を刊行し、TBSラジオ「全国こども電話相談室」の回答者を28年間務めた。



小学校時代の思い出

昭和27年（1952年）私は小田原市立城内小学校の6年生でした。1組から5組までありましたが私は4組で生徒の数は61名（男34、女27）。担任教師は**岩本實先生**（故人）。1年生から5年生まで担任はずっと女性教師でしたが、6年生になって初めて男性教師が担任になりました。6年時の1年間だけの担任でしたがこの**岩本先生が私にとって最も恩義を感じる印象深い先生**です。私が得意としていた「**国語**」の学力を飛躍的に伸ばしてくれました。先生は私の読書好きを知ると盛んに督励してくれました。授業中によく指名してくれ、ほかの人が答えに窮している時に私が読んだ書物の知識を生かして答えると「**山本君は日頃よく本を読んでいろいろなことを吸収しているから答えることができる。**」とほめてくれました。岩本先生は皆によく作文を書かせました。私自身が読書好きであったことと、作文をよく書かされたことなど岩本先生の国語授業のおかげで6年生の時の**学力テストで城内小学校6年生全員（300名くらいか？）の中で国語では一番**の成績を取りました。

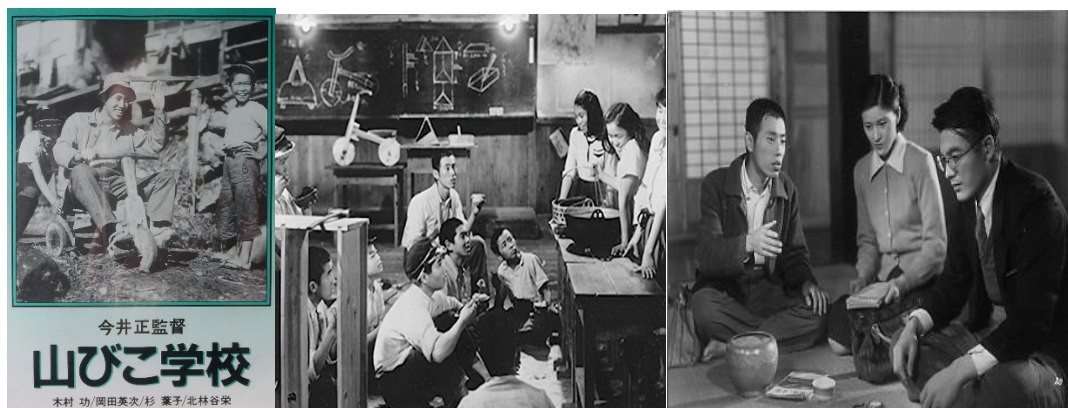
「やまびこ学校」の作文と映画

おっと、自慢話をするつもりじゃなかったんだ！何の話だったっけ？あっ！そうだ、無着成恭氏の話でしたね。昭和27年のある日の授業で岩本先生が「やまびこ学校」の話をされ、その時初めて「無着成恭」という人のことを知りました。無着氏は山形県の中学校で子供たちが生活のありのままを作文に書く教育「生活綴り方」を実践、生徒の詩や作文を収めた「山びこ学校」を昭和26年に出版しベストセラーになりました。



文集「やまびこ学校」の表紙

岩本先生は自分の作文に対する教育方針と無着氏の考え方が同じだと授業の中でも私たちに話され。昭和27年に映画化された「やまびこ学校」（監督：今井正、出演：木村功、滝沢修、杉葉子、岡田英次）を見るように私たちに勧められました。私はこの映画を見たのか見なかったのか、判然としません。見たような気もするし、見なかったような気もします。ただ、映画好きの私は映画の事となると、監督、役者などをデータベースとして見てしまうので繰り返しその作品に触れているうちに何となく映画を実際に見たような気になっていることがあります。主演俳優の木村功も「やまびこ学校」のスチール写真など何度も見ていううちに実際に映画で見たように錯覚しているのかもしれませんが。無着成恭と聞いただけで木村功の顔が浮かんでくるくらいです。



映画「やまびこ学校」のポスターとスチール写真

生涯の友との出会い

いずれにしても私はこの「無着成恭（むちゃくせいきょう）」と言う名のその日本人の名前とはおもえない読み方が強烈に印象に残りました。その後ラジオなどにレギュラー出演されたので段々慣れてきてその東北人らしい訛りと共に、人柄に親しみを覚えるようになっていきました。但し、特にファンになったとかいうのではなく、いつの間にか忘れて行きました。ただ、その後の私の人生のいろいろな場面の中で城内小学校6年4組の1年間（昭和27年4月～28年3月）はとても大事な1年であったような気がします。この4組で机を並べた級友の中澤秀夫、藤井暉生（故人）、水口幸治、望月郁文（故人）とは特に仲良くなり、今に至るまで70年以上の水魚の交わりを結んでいます。この5人は岩本先生の当時鴨宮にあったご自宅を揃って訪れたりしていました。卒業してからも私たち5人の間ではいつも岩本先生との思い出が話題になりました。遠足の時の記念写真はただすました顔で整列するのではなく、それぞれが何か食べ物や飲み物を口に入れていたり、何かを叫んでいるように口を開けていたりしている写真を撮らせたり、或いは男女が帽子を交換して被らせたりしました。とにかく決められた画一的なことは嫌いな先生でした。この当時としては型破りの先生のもとで生涯の友との交流の基礎ができました。

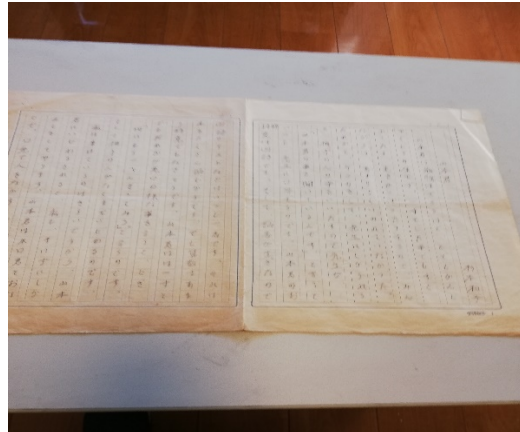
無着成恭の訃報に接して

2023年12月のある日無着成恭の訃報を知って幼い頃のことをいろいろと甦ってきました。一番私の心の中に強烈な思い出として残っているのは岩本先生が国語授業の中で力を入れていた作文でクラスメートのことを書かせたことです。4組の級友の中で自分を取り上げたいと思った友のことを自由に書くというものです。私たち5人は藤井、水口、望月が私・山本のことを取り上げて書き、中澤と私・山本が水口のことを取り上げて書きました。私のことはもう一人杉本和子と言う女子が取り上げて書いてくれました。それぞれが私の成績、性格、家族構成などについて率直にありのままに書いてくれています。今読み返してもあの頃の自分は皆にこういう風に思われていたのだということがよく分ります。今の自分にもそのまま当てはまるのじゃないか？というような部分もあります。岩本先生が人と違ったところはこの作文を書いた本人ではなく、書かれた生徒に渡してしまい書いた人の手元には残らなかったということです。私は4人の級友が書いてくれた作文を渡され、71年経った今でも手元に大事に保管しています。どんなことが書かれているか、できれば次の機会にこのサイトでご紹介したいと思っています。興味のある方はお楽しみになさってください。

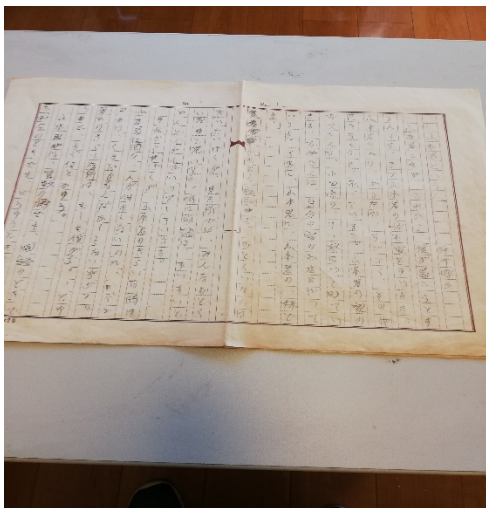
（70年以上手元に保管してあるのは実はもう一つあります。場合によってはそれもお見せしちゃおうかなあ・・・）



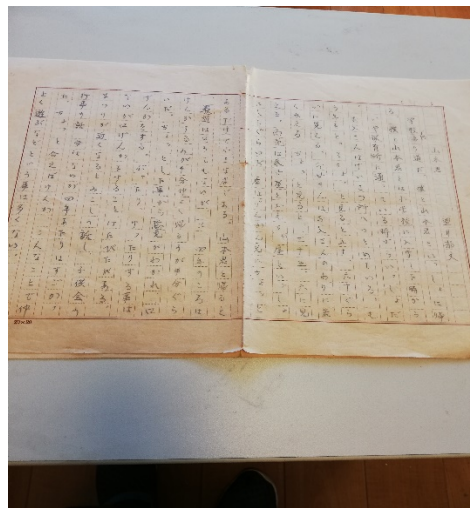
水口幸治さんの作文



杉本和子さんの作文



藤井暉生さんの作文



望月郁文さんの作文